

## 若者支援と地域共同体との連携に関する考察

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程 井上慧真

### 1 目的

この報告の目的は、イギリスにおける若者支援事業のひとつであるユースサービスについて、その担い手としての「有志」に注目し、活動への参加の構造を明らかにすることである。ユースサービスは「青少年の余暇活動を促進するために、行政機関と民間有志団体が相互の協力のもとに行うさまざまな援助活動の総称」（柴野 1974: 23）である。ユースクラブ等の施設を基盤とする活動、および街頭など青少年のいる場所に出向いての活動を行ってきたが、いずれに関しても各地域共同体を基盤として活動を行ってきた点に特徴がある。そして担い手に関しては、専門職ユースワーカーと有志ユースワーカーが併存する構造が指摘された(Bradford 2015)。ただし実際の人数においては、少数の専門職と多数の有志ユースワーカーという構造が維持され、また有志ユースワーカーを経て専門職ユースワーカーになる者も多い。本報告では、この有志ユースワーカーの活動への参加の構造に注目し、彼らがどのような経路で若者支援の活動に参加するようになったのか、そして彼らを通じていかに地域の資源が動員されたのかについて検討する。

### 2 方法

資料としては、*Year book of the youth service in England and Wales*を用いる。同書は Youth Service Information Centre により 1971 年に刊行されたもので、イングランドおよびウェールズの地方当局、および民間有志団体による若者支援事業が網羅的に収録されている。この中には、職員であるユースワーカーに関して、その活動状況等も含まれている。柴野(1974)や田中(2015)が指摘したようにユースサービスのちょうど拡大しつつあった時期に刊行されたものであり、当時の状況を知るために重要である。具体的には、各地域におけるユースワーカーの基本的な情報（専門職・有志ユースワーカー各々の人数、予算規模など）をふまえ、特に有志ユースワーカーがいかにしてユースサービスに参加し、また活動したかに関する記述を分析する。

### 3 結果

分析の結果、有志の参加に関して、特徴的な点を見ると、まず第 1 に、教会の教区などを基盤として活動する民間の有志団体に参加する成人が、それらの有志団体を通じてユースサービスの活動に参加する事例がみられた。また、第 2 に、これらの有志団体は活動を担う人材を提供しただけではなく、研修を実施し、また高等教育機関と連携して専門職ユースワーカーの養成課程を運営するなど、専門職としてのユースワーカーの確立にも協力しており、専門職ユースワーカー・有志ユースワーカーの双方における活動参加に重要な役割を果たしていた可能性がある。第 3 に、資料 (*Year book of the youth service in England and Wales*) の記述の中心は 1970 年代の地域を基盤とする活動であるが、同時期に地域を横断してあらわれた若年失業・移民の増加等の問題に関しても、萌芽的にはあるが取り組みがみられた。

### 4 結論

上記の点についてのより詳細な分析、結論、および参考文献の提示に関しては、本報告において行う予定である。